

「次期京都市基本計画策定方針（案）骨子案」と「未来の京都創造研究会」の進め方について（案）

次期京都市基本計画策定方針（案）骨子案

基本計画の在り方

- ① 戦略的かつ簡潔・明瞭な計画
 - ・ 京都のポテンシャルを活かして優先順位づけされた計画
 - ・ 外からの視点を重視して政策の成果を評価する「管理可能な計画」
 - ・ 財政見通しや都市計画マスタープラン、区基本計画等と連携しつつ、個別・具体的な取組については、下位の計画に委ねる「分権型計画」
 - ・ 定量的指標と定性的指標のバランスよく設定され、地域住民の統合機能やシンボル機能を果たす「分かりやすい計画」
 - ・ 市民のわかりやすさと行政職員の使いやすさを確保するため、市民の目線による横断的なものとしつつ、分野別計画との関係整理（策定方法や相互の反映方法等のルール化・見える化）によって、行政部門へ翻訳
- ② 市民との協働・共汗により策定・推進する計画
 - ・ 市民が計画の策定及び推進に参画する「協働型計画」
 - ・ 目的に応じた適切な参加対象を設定し、新たな地域的価値の実現をめざす地域計画
 - ・ 計画策定の参加主体が成長できる計画過程
- ③ 柔軟に進化（深化）する計画
 - ・ 計画点検結果等を活かして計画自体がつくりなおされていく計画
 - ・ 総合的な目標達成に向けて柔軟に指標を設定する計画

京都市をとりまく現状 ※「京都市の政策方向に関する基礎資料」を作成

京都の未来像の方向付け

- ① 京都の未来像
『地域主権時代のモデル都市 ～京都発、京都流～』
 生活・地域のビジョン ○生活者が主役 ○人や場のつながりが豊か
 都市のビジョン ○世界に誇れる ○ソフトパワーがみなぎる
- ② テーマ（ねがい）
 ≪横断的な視点 いのち、ひと、環境、知恵、刷新≫
 生活・地域のビジョン
 ◆少子高齢化時代のモデル都市になる ～子どもに笑顔、若者に夢、お年寄りに安心と生きがい～
 ○子どもの笑顔と安心な暮らしを地域力が支える
 ○若者がいきいきと京都で学び、京都で働く
 ○互いに教えあい、学びあい、人生を楽しむ
 ◆地域の抱える力を高める ～ソーシャルキャピタル倍増～
 ○だれにも人のつながりと居場所がある
 ○地域の未来を地域が決め、自ら運営する
 都市のビジョン
 ◆環境先進都市になる ～環境を基軸に京都型の経済・生活スタイルの開発～
 ○まちのどこにも市民が誇れる魅力が溢れる
 ○公共交通が便利で、散歩や自転車が似合う
 ○地球環境への危機感を市民が共有し、立ち向かう
 ◆京都の強みを活かして都市の活力を高める ～文化力を磨き、多面的に活用～
 ○高い文化力が新たな価値を世界に発信する
 ○観光と交流がチャレンジを育む
 市政運営 刷新 ○機動的でセンシティブな市役所 等
 （ビジョンの共通の土台とし、市政改革懇談会の議論等を取り入れる）

解決策（戦略、重点施策）

- ① 目標（京都のよさを生かして実現をめざすべき姿、状態（及びその定量的・定性的指標））
- ② 課題（未来像実現に向けて市（市民）が対応すべき現状あるいは将来の問題（予測））
- ③ 取組方策（未来像を実現するために実行すべき取組方策及び重点施策）

第1回研究会で議論

会議資料（当初）

京都の未来像

≪全市的な方向づけ≫

≪分野別の方向付け，課題≫

生活

～安全安心，絆，地域力，ソーシャルキャピタル～

○生活者の視点を重視
○人や場のつながり

都市

～誇り，アイデンティティ，京都力，ソフトパワー～

○魅力的で世界に誇れるまち
○京都流の市政運営

＝安らぎのある暮らし＝

いのち

○地域で支える福祉，子育て，教育

ひと

○つながりと居場所づくり

＝華やぎのあるまち＝

環境

○魅力溢れる都市空間の創出
○公共交通を軸とした環境にやさしい都市構造
○地球温暖化対策の重視

知恵

○文化力による新たな創造
○ビジターズ・インダストリー

＝市民との厚い信頼関係の構築をめざして＝
刷新

≪研究会での主な意見≫

【視点，留意点】

- 10年後の夢よりも今日明日の生活という方々のことをよく意識を。
- 市民が自ら実践したくなるような計画に。そのためバックアップの仕組みが重要。
- 【未来像の構成・内容】
- 都市構造・土地利用の誘導については、公共交通の論点と別のところにあるべきでない。
- 産業問題，働く基盤をしっかりしていくことが必要。持続可能な都市の条件。
- 中高年のキャリアを結びつける「結縁」の仕組みが重要。
- 「観光客 5000 万人」に続く大きな戦略，他都市にはない取り組みが必要。例えば「子ども」を切り口とした横断的な取組。
- 「刷新」の記載が必要。機動的でセンシティブな市役所に。
- 「京都流市政運営」は全体像と分野別の両方にかかるのではないか。
- 京都固有のものと普遍的なものを分けて出してはどうか。
- 全体像は「生活」と「都市」の間になにか別のレイヤがあるかもしれない。
- 地方制度の曲がり角における「特別な市」としての京都市のあり方を検討することが必要。

部会の運営方法（第3回研究会で議論）

部会における検討

政策課題ごとに、目標，課題，重点戦略をパッケージで検討

各部会における議論との全体調整

部会間の情報共有

第5回における検討

- ・ 骨子案に部会の議論を反映
⇒方針（案）の確定

第4回における検討

- ・ 部会間の議論の融合

各種審議会、委員会等との連携、調整

100人委員会との連携、交流